



# Jリーグシンガポール視察 2019

## 報告書



ザ・フロート@マリーナ・ベイ



シンガポール・スポーツハブ



タンピネス・ハブ

2019年6月14日(金) ~ 17日(月)  
公益社団法人 日本プロサッカーリーグ



## 目次

視察概要	.....	2
Ⅰ. シンガポール・スポーツハブ	.....	3
Ⅱ. タンピネス・ハブ	.....	7
Ⅲ. タウン・スクエア (タンピネス・スタジアム)	.....	15
Ⅳ. タンピネス・ローバーズ FC	.....	19
Ⅴ. ゲイラン・インターナショナル FC	.....	23
Ⅵ. ザ・フロート@マリーナ・ベイ	.....	27
Special Thanks	.....	29
おわりに	.....	30

## 視察概要

### 【日程】

6月14日	金	11:30	羽田空港発
		17:35	チャンギ空港着
		19:00	シンガポール・スポーツハブ視察
6月15日	土	12:00	タンピネス・ハブ視察
		17:00	ザ・フロート@マリーナ・ベイ視察
6月16日	日	13:00	タンピネス・ローバーズ FC ヒアリング
		14:30	ゲイラン・インターナショナル FC ヒアリング
		17:30	シンガポールプレミアリーグ第12節視察 GIFC vs BKFC
6月17日	月	11:00	チャンギ空港発
		19:10	羽田空港着

### 【参加者】5名 (敬称略)

1. 中西 健夫 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 会長
2. 今泉 裕人 同 事務局長
3. 佐藤 仁司 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ クラブ経営本部  
クラブライセンス事務局 スタジアム推進役
4. 井ノ口 弘彦 同 スタジアム推進役
5. 大城 亨太 同 クラブライセンス事務局

# I. シンガポール・スポーツハブ (Singapore Sports Hub)

2019年6月14日訪問

佐藤 仁司

## 1. シンガポール、スポーツの核

### (1) アクセスに優れた立地

マリーナ・ベイに続くカラン川河口、カラン湾に面するオフィス住宅街。チャンギ空港から16km(車で17分)、MRTサークル線の「スタジアム」駅前。どこからもアクセスが良い立地に、総事業費13億3000万シンガポールドル(※約1080億円)をかけて建設された一大スポーツゾーン。敷地面積は、35ha(東京ドーム7個分)もある。

※竣工当時レートで1シンガポールドル=81.17円

着工は2010年9月29日、完成は2014年6月30日(工期3年9カ月)。設計はアラップ(Arup Sport)JV。



金曜の19時、スタジアム駅からスポーツ施設の利用者が次々と出てくる

### (2) 建設は国のリードによる官民連携

建設は、政府機関であるシンガポール・スポーツ協議会(Singapore Sports Council: SSC)が設計、建築、資金調達、経営面において下記4企業によるコンソーシアムと25年間のPPP契約を締結して取り組んだ。

①資金調達運用部門(InfraRed Capital Partners)、②設計建設部門(Dragages Singapore)、③施設管理部門(Cushman & Wakefield)、④施設運営部門(Global Spectrum Asia)

施設の所有者は、SSCが法人化したスポーツ・シンガポール(スポーツSG)※後述

運営主体は、The Sports Hub Ptd Ltd (SHPL)。

## 2. スタジアム、アリーナ、プールなどを集約

### (1) スポーツハブを構成する施設の概要



- ① ナショナルスタジアム (5万5000人)
- ② インドア・スタジアム (4000~1万2000人) : 丹下健三設計のコンサートおよびスポーツアリーナ
- ③ OCBCアリーナ (300~3000人) : バスケットボール、フェンシング、バドミントン、バレーボール、ネットボール、テコンドーの各協会のホーム。
- ④ OCBCアクアティックセンター (6000人) : 50mプール x2、25m/飛び込みプール x1



- ⑤ ウォーター・スポーツセンター : カヌー、カヤックなどボート競技場
- ⑥ スプラッシュ・N サーフ : レジャープールなどウォーター・アクティビティ
- ⑦ シンガポール・スポーツ博物館、スポーツハブ図書館 : 8000冊のスポーツ図書館
- ⑧ KALLANG ウェーブ・モール (4.1ha) : ショッピングセンター(ユニクロや H&M など)、スーパーマーケット、レストラン・カフェ、スポーツライミング
- ⑨ SHIMANO サイクリング・ワールド : 日本の自転車部品製造会社シマノによる自転車文化、サイクリング情報館
- ⑩ その他、コミュニティ施設 : ランニングコース、スケートパーク、ビーチバレーコート、ローンボウルズ、フィットネスなど

## (2) 利用者の多さ

視察したのは、インドア・スポーツのホール6つとジムを備えた「OCBCアリーナ」。金曜の夜、利用者の多さに驚いた。学生の「部活」だろうか、施設の至る所で汗を流す若者のグループを目にした。バスケットボールやバレーボール、バドミントンなどの代表チームも練習する施設が、広く国民に開放されていた。

 <small>at singapore sports hub</small>					
ACTIVITIES	DURATION	NON-PEAK HOURS Weekdays: 7:00am - 6:00pm		PEAK HOURS Weekdays: 6:00pm - 10:00pm Weekends & Public Holidays: 7:00am - 10:00pm	
		Local Resident Rate*	Standard Rate	Local Resident Rate*	Standard Rate
Table Tennis	1 hr	\$4.00	\$5.20	\$5.00	\$6.50
Badminton	1 hr	\$5.00	\$6.50	\$8.00	\$13.00
Netball	1 hr	\$15.00	\$22.00	\$30.00	\$43.00
Volleyball	1 hr	\$15.00	\$22.00	\$30.00	\$43.00
Basketball	1 hr	\$30.00	\$40.00	\$40.00	\$52.00

\*Applicable for Singapore Residents & Permanent Residents. (Valid photo ID required)

利用料金は、個人で 320～1040 円/1 時間  
 バスケットコートは、2400～4160 円/1 時間  
 ピーク時は割高、近隣住民は割安



e-sports 専用スタジオも整備されていた

## (3) スポーツハブのパートナー

パートナーシップ : Sport Singapore (政府機関)  
 プレミア創設パートナー : OCBC Bank (1社)  
 スポーツハブ創設パートナー :  
 キヤノン(Canon)、Great Eastern 保険、  
 StarHub 通信、Tigerビール (4社)

OCBC はオーバーシー・チャイニーズ銀行 (Oversea-Chinese Banking Corporation) がプレミア創設パートナーとして 2 施設の命名権を、15 年間で 5000 万シンガポールドル (約 40 億円) で契約している。



OCBC アリーナ内にあるスポーツホールにはパートナー各社の広告幕が掲げられている

この他、プレミア席パートナーのラグアデル社、チケットングのニューエラ・チケット社などのパートナーが付いている。



Seats、2 室のメンバーズ・ラウンジを備えている。

スタンド内やピッチ、諸室は、土日のコンサートに向けたリハーサル貸し出し中のため視察できなかったが、爆音が外まで響いていた。



OCBC ラウンジは着席で 300 人、立食で 500 人収容可

高さ 82.5m、直径 310m、吊り下げ構造の屋根は、中央から左右に分かれてスライドし、約 20 分で開閉可能。屋根は約 19mm の薄い鉄板が使われ、重量を減らすため可動部はさらに約 6 mm にまで加工されている。開いた屋根を通して、競技場内部から、マリーナ・ベイ・サンズやシンガポール・フライヤーなど、シンガポールの都心部を望む事ができる。



### 3. シンガポール・ナショナルスタジアム Singapore national stadium

#### (1) 開閉式屋根の陸上競技場

シンガポール・スポーツハブの核となる開閉式屋根を備えた国立陸上競技場。2007 年に閉鎖された旧国立競技場（1973 年竣工）を建て替えた。5 万 5000 人収容（クリケットは 5 万 2000 人、陸上競技は 5 万人）。



62 室の Executive Suites、456 席の Premium Plus Seats、544 席の Premium

#### (2) 可動式スタンドで球技場に

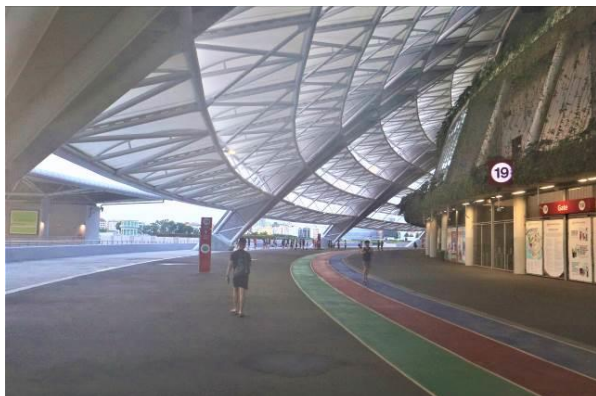
競技に合わせて観客席が 3 つのモードに変化。最前列の位置を前後に動かせる。観客席の一部を地下に収容し、前方の席を滑らせて後方に下げるといふもので、この設置の変更は 48 時間で可能。競技スペースが最も狭いサッカー・ラグビーモードから、最も広い陸上競技モードに変更すると、最前列の座席が



約 12m 後退することになる。

完成した 2014 年 10 月 14 日、サッカー国際親善試合 ブラジル代表 vs 日本代表を開催。Desso 社のハイブリッド芝 GrassMaster を敷設したが、全く根付かずに、ピッチは波打つ畑状態となった。

※4-0 で勝ったブラジルの 4 ゴールは全てネイマール。日照が制限され、風通しも悪い構造により、天然芝には厳しい環境になっている



#### 4. スポーツ・シンガポール (Sports SG)

##### (1) 陸上競技場の中にオフィス

政府機関が法人化した（例えば、独立行政法人 日本スポーツ振興センターのような）スポーツ SG のオフィスはナショナルスタジアムの中にある。



##### (2) 「Vision 2030」

スポーツ SG は、文化・社会・青年省 (MCCY) の傘下でスポーツ政策を担当。シンガポールの精神を刺激し、スポーツを通じて同国を変革することを目的としている。

2011 年に「Vision2030」を策定、スポーツを通して健康増進、思いやりと一体感のあるコミュニティ、強い国民的アイデンティティと誇りを視野に置いた

政策を打ち出した。

Vision 2030 は 20 の提言で構成され、その中に、機会創出として打ち出された「Active SG」があり、スポーツ SG が管理・運営するスーパースポーツクラブ組織 = 公共スポーツ施設のソフト施策の「スポーツ施設マスタープラン (Sports Facilities Master Plan : SFMP)」と、利用しやすいスポーツ施設やプログラムを提供するハード施策がある。

シンガポール・スポーツハブは、この SFMP を具現化した「全てのための質の高いスポーツスペース」として建設された第一号である。

##### (3) 4 段階の規模に分けた全国展開

スポーツ SG は、SFMP を 4 段階に分けて、国内に拡充する計画を持っている。巨大なシンガポール・ハブは「Tier 1」、スタジアムを核として行政サービスや図書館、医療福祉を複合したタンピネス・ハブは「Tier 2」、エリア規模や投資額を抑えた「Tier 3」「Tier 4」と、整備計画がある。



施設所有者であるスポーツ SG は、ActiveSG の推進者として、運営主体である民間の SHPL をコントロールしている。SHPL は施設の稼働、イベント招へいを委託され、スポーツ消費者のニーズに常に耳を傾けている。学校行事とのタイアップも同社による。

リーダーのサンドラをはじめ、女性 5 人によるプレゼンは 20 時 40 分に始まり、22 時まで続いた。スポーツ・ネットワークの基地は、熱意あふれる彼女らによって支えられていた。

## Ⅱ. タンピネス・ハブ (Our Tampines Hub)

2019年6月15日訪問

井ノ口 弘彦

### 1. タンピネス・ハブ

#### (1) タンピネス

タンピネスは、シンガポール東部における産業、交通のハブとして1980年代以降に開発された新興住宅地である。人口は25万7000人、面積は2089ha。滞在したセントラル地区のCity Hall駅から地下鉄 East West LINE を利用し、約25~30分の距離である。近隣には Tampines Mall、Tampines One、センチュリー・スクエア、Tampines IKEA などの大型ショッピングモールがあり、視察日が土曜日であったこともあり、街そのものは大変なにぎわいであった。



1989年に開業したタンピネス駅  
East West LINEとDowntown LINEが乗り入れる

#### (2) タンピネス・ハブ



#### ① アクセス

タンピネス・ハブ(Our Tampines Hub : OTH)はタンピネス駅から徒歩約7分の立地である。

#### ② 施設の概要

OTHは「旧タンピネス・スタジアム」と「タンピネススポーツホール」を解体し、その跡地を利用して2013年6月に着工。スタジアム、プール、インドア・アリーナ、フィットネス・ジムなどのスポーツ施設を中心に地域図書館、パブリック・サービス・センターなどの行政施設、クリニック、リハビリセンターなどの医療・福祉系施設、ボウリング場、シアターなどのレクリエーション施設、ショッピングモール、飲食店などの商業施設の機能を複合して建設された地上7階、地下2階（敷地面積：5万7000㎡、総床面積：23万2000㎡）の地域住民のための大型「コミュニティー＆ライフスタイルハブ」である。建設費は約5億シンガポールドル（※約405億円）である。

※竣工当時レートで1シンガポールドル=81.03円

所有はシンガポール政府、施設全体はPeople's Association(PA)※が管理・運営をしている。

また、スタジアム、Arena@OHT、Community Auditoriumを除く、主要なスポーツ施設の管理・運営はスポーツシンガポール（スポーツSG）が行っている。設計はDP ARCHITECTSが担当し、施設全体は地域住民1万5000人のフィードバックを反映したデザインとなっている。

※People's Association（人民協会）

1960年に人種の調和と社会的結束を促進するため設立された法定委員会。約1800に及ぶグラスルーツ組織、100以上のコミュニティー・クラブ、5つのコミュニティー開発評議会を統括・監督している。Ministry Of Culture, Community And Youth(MCCY 文化・社会・青年省)

の管轄下で活動している。



(ロゴ転用：PA HP より)

③ OTH のステークホルダー

OTH は PA を中心にその他 12 の政府機関、法定委員会のサービスや機能を一つの建物の中に統合している。



(ステークホルダーロゴ：HUB GUIDE より転用)

Active SG (Sport SG)	文化・社会・青年省のスポーツ振興部門
careers connect	キャリアセンター
Home team NS	シンガポール警察と軍の会員制クラブ
HOUSE DEVELOPMENT BOARD	住宅開発庁
MINISTRY OF HEALTH	保健省
MINISTRY OF SOCIAL AND FAMILY DEVELOPMENT	社会開発省
NATIONAL ARTS COUNCIL	シンガポール国家芸術評議会
National Environment Agency	国家環境省
National Heritage Board	国家遺産局
National Library Board	国立図書館局
North East Community Development Council	北東社会開発協議会
Tampines Central	地域コミュニティー・クラブ

④ OTH の主な施設構成



(外観図：HUB GUIDE より転用)

**B2 階 施設構成**

駐車場	一般向け、ファミリー向け、計約 900 台
-----	-----------------------

(以下、フロアマップ図転用：HUB GUIDE より)

**B1 階 施設構成**

駐車場	一般向け、ファミリー向け、計約 400 台
Festive Mall (ショッピングモール)	2万3000㎡、スーパーマーケットや飲食店、小売店が130店舗軒を連ねる(26店舗は24時間営業)
ボウリング場	30レーンのシンガポール最大のボウリング場(祝日前は深夜3時まで営業)
Festive Play & 子ども学習センター	子ども向け遊び場(遊具やアトラクションが用意されており、OTH内には合計4つの子ども向け遊び場がある)
各種スクール	ヨガ、英会話など、個人向け各種スクール





・駐車場



・ボウリング場



・ショッピングモール



24 時間営業のスーパーマーケット

・ショッピングモール（飲食店）



日本の飲食店も出店

・子ども学習センター



・Festive Play



子ども向け遊び場

### Level1 (L1) 施設構成

Town Square (スタジアム・メイングラウンド)	人工芝敷設の収容数 5000 人の多目的球技場
Arena@OTH (インドア・アリーナ)	フットサルコート 2 面 テニスコート 4 面(ハードコート) ホッケーコート 1 面
Festive Walk	250m にわたる施設のメイン通路。各種イベントのディスプレイ用に利用
Festive Plaza + Central Plaza	イベント用の多目的大広場 (映画上映、ミニコンサート、集会などの各種催事に対応)
Hawker Center (屋台村)	24 時間、365 日オープン of 40 店舗、800 席の屋台村 一食約 220 円～、大変にリーズナブル
パブリック・サービス・センター	PA 運営の各種行政手続き、住宅紹介など地域住民へのサービスを行う施設 (1 万 3000 人/月が利用)
フィットネススタジオ レッスンスタジオ	スタジオサイズの各種グループ・個人レッスン室 (エクササイズ、モダンバレエ、ダンス、武道など)



・Town Square (タンピネス・スタジアム)



スタンドはメインのみの設計で2層構造  
(収容数：上層：2000席、下層：3000席)

・Arena@OTH



・Festive Walk



・Festive Plaza



・Hawker Center (屋台村)



・パブリック・サービス・センター



Level2 (L2) 施設構成

Tampines Regional Library (地域図書館)	床面積は約1万8000㎡、施設の2～6階を使用。蔵書は40万冊。クッキングスタジオや子ども向け屋内遊技場を併設。また、読書スペースからはピッチを一望できる
OTH ギャラリー	タンピネスの街の歴史などを展示
コミュニティー・クラブ	地域住民への各種コミュニティーサービス
Active SG チームスポーツホール	観客数1800人収容可能なインドア・アリーナ、ハンドボール、バレーボール、バスケットボールなどの試合、練習に利用される
Festive Arts Theatre (劇場)	400席の劇場。映画上映、コンサート、講演会に利用される (国立芸術委員会と提携)
スタジアムラウンジ	エグゼクティブ用ラウンジ (50人収容)
クライミングウォール	競技者にも対応できるクライミングウォール



・地域図書館(L2～6)





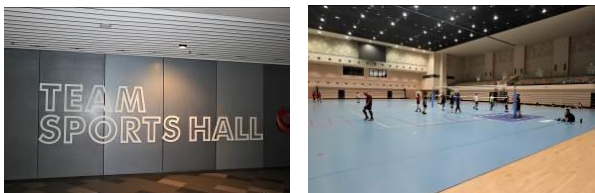


読書スペースからはピッチが一望できる

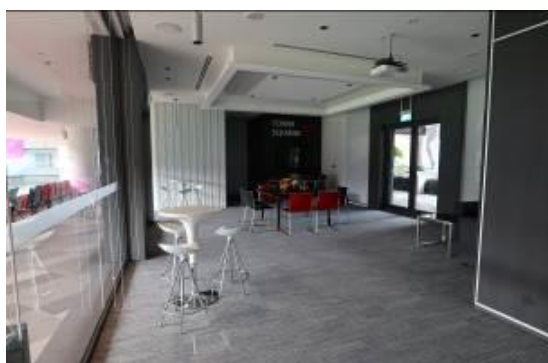
・Festive Arts Theatre(劇場)



・Active SG チームスポーツホール



・スタジアム Executive Lounge



50 人の利用が可能なラウンジ

Level3 (L3) 施設構成

Eastern Community Health Centre (地域医療センター)	個人医師による診察が受けられる医療センター（5つの大学提携。医学知識の共有、医師の派遣、患者データの共有などが可能になった）
Community Auditorium (コミュニティー講堂)	2000席の可動観客席を備えた多目的大ホール、各種イベントや公演などが行われ、シンガポール最大のバドミントン施設（20面）にもなる
ウェルネス・センター	最新のクッキング設備を備えた食を通した健康施設
Active SG ヘルスラボ	スポーツSG運営のスポーツ科学に基いた運動能力の向上、リハビリを目的としたプログラムづくりが可能なヘルスラボ。ここで計測されたデータは館内のスポーツジムなどの施設やクリニック、提携病院と共有。各個人の生活改善点、能力に応じてフィットネス、栄養改善プログラムが作成され、トレーニングやリハビリが指導される。利用者は主に30~50代、1万人/年が利用
タンピネス・ファミリー・メディカル・クリニック	複数の医師が在籍し、子どもから高齢者までを対象とした医療機関
Home Team NS	軍・警察関係者のクラブ制のスポーツクリエーション施設





・クリニック（地域医療センター）



・ファミリー・メディカル・クリニック



地域医療センター、タンピネス・ファミリー・メディカル・クリニックなどが入る医療棟

・コミュニティー講堂



・ウェルネス・センター



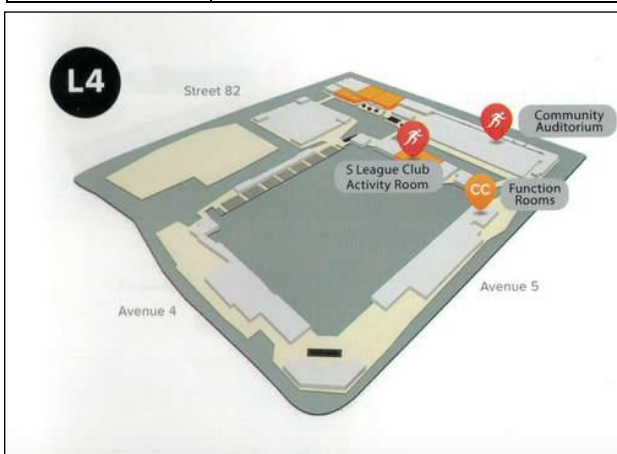
・Active SG ヘルスラボ



身体計測データは各施設に共有されトレーニングやリハビリのプログラム作成に活用される

Level4 (L4) 施設構成

クラブオフィス& クラブラウンジ	ゲイラン・インターナショナル FC のオフィスとクラブラウンジ
高齢者ケアセンター	高齢者が定期的な治療やリハビリプログラムが受けられる医療センター
セミナールーム	地域住民が会議などを行う多目的のルーム
Active SG Activity Room	ヘルスラボと直結したフィットネススタジオ（エクササイズやストレッチなど、さまざまなプログラムに対応）



・クラブオフィス&クラブラウンジ



・高齢者ケアセンター



(高齢者ケアセンター写真転用：HUB GUIDE より)

Level5 (L5) 施設構成

エコ・コミュニティー・ガーデン	市民により果物や野菜のオーガニック栽培が行われている契約農園（OTH内の料理教室で使用）
ジョギングトラック	一周 700m のラバー製のジョギングコース（朝 7 時～深夜 24 時まで開放）（ロッカー、シャワー完備）
ルーフガーデン& バーベキューピット	屋上のガーデンではピッチを眺めながらバーベキューが楽しめる



・エコ・コミュニティー・ガーデン ・ジョギングトラック



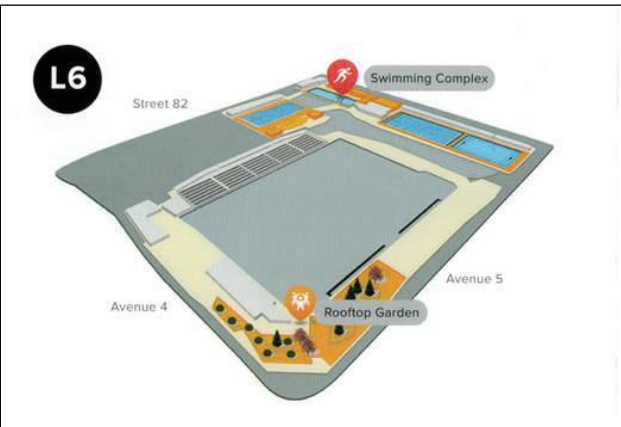
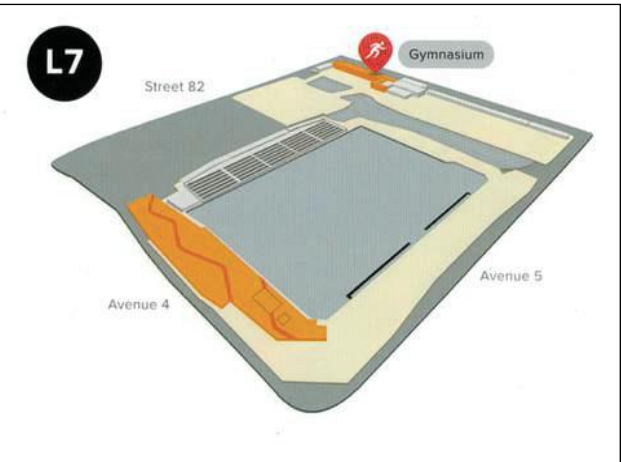
競泳用プール

### Level7 (L7) 施設構成

Active SG フィットネス・ジム	スポーツ SG が運営する最新設備とテクノロジーを備えたスポーツジム。利用料は3.2シンガポールドル/一般大人、2.5シンガポールドル/アスリート。キャッシュレスシステムが導入され、チケット購入には携帯アプリを利用する
------------------------	---

### Level6 (L6) 施設構成

Active SG スイミング・プール ・コンプレックス	スポーツSG運営のプール・コンプレックス、国際競技（競泳、水球、飛び込みなど）に対応した全長 50m、水深 2m、10レーンの競技用プール（観客席 900）、レクリエーション用プール、子ども用プールなど、合計 6つのプールがある
------------------------------------	--



・Active SG スイミング・プール・コンプレックス



レクリエーション用プール



子ども用プール

・Active SG フィットネス・ジム



最新機器を使いアスリートから高齢者までがトレーニング



⑤ 施設の管理・運営

施設全体の管理・運営業務は PA が行っている。Town Square (スタジアム)、アリーナ@OTH、Community Auditorium 以外のスポーツ施設 (スイミング・プール・コンプレックス、チームスポーツホール、フィットネス・ジム、ジョギングトラック、ヘルスラボなど) はスポーツ SG が管理・運営をしている。

2. 所感

2012年11月1日、「芸術・スポーツを通じてシンガポール国民を鼓舞し、コミュニティの絆を強化し、ボランティア活動や慈善活動を促進をする」というビジョンのもと、社会開発スポーツ省は文化・社会・青年省 (MCCY) として再編された。MCCY 傘下のスポーツ SG は国民のコミュニティとアイデンティティの強化を目的に「Vision2030 スポーツマスタープラン」を策定した。そして、同プランのハード面の施策として Sports Facilities Master Plan (SFMP) を打ち出し、スポーツを核としたコミュニティ施設の新設と既存のスポーツ施設の再開発を推進している。SFMP は Tier4 までの規模別に段階分けされており、シンガポール・スポーツハブは SFMP Tier1 に位置付けられ、OTH は SFMP Tier2 に位置付けられている。そして、2021 年には SFMP Tier2 の施設として「Punggol Regional Sports Centre」がオープンする予定である。



(Punggol Regional Sports Centre 完成予想図 :MCCY HP より)

今後、スポーツ SG は SFMP Tier2 としてスポーツ施設を核とした「コミュニティ & ライフスタイルハブ」を国内の 5 つのコミュニティ開発評議会区 (2 区は

完成、1 区は建設中) への建設を計画している。

- 国民の運動能力の向上と健康増進を図るため最新式のスポーツ施設を提供する。
- 国民がスポーツ観戦およびスポーツ参加できる施設を建設し、良質なレクリエーションを提供する。
- 医療・福祉施設の併設および医療・福祉サービスプログラムの提供により国民の健康管理をする。
- 施設内にショッピングモールや飲食店を複合し、生活面での利便性の向上を図る。

以上により、国民のコミュニティとアイデンティティを強化し、国民の生活を豊かにするのがコミュニティ & ライフスタイルハブ建設の目的である。

OTH(SFMP Tier2)に代表される、スタジアムを核としたコミュニティ & ライフスタイルハブの事例は、日本の地方都市におけるスタジアム建設にとって大きな示唆となる。地方においてはスタジアムが多目的に利用され、経営が黒字化することは難しい。また、地方では住民の高齢化による医療費の高騰が社会的課題ともなっている。今後、地方都市におけるスタジアム建設で以下①~⑤の施設の複合化が実現したなら、スタジアムを中心に地域住民の交流を活性化することができ、また、上質なレクリエーションを提供することもできるのである。

- ①地域住民が気軽に利用できるスポーツ施設 (フィットネス・ジム、スイミング・プール、インドア・アリーナなど各種スポーツ教室)
- ②公共施設 (図書館、コミュニティセンター、行政サービスセンター、カルチャースクールなど)
- ③医療・福祉施設 (ヘルス・ラボ、クリニック、リハビリセンター、高齢者ケアセンターなど)
- ④商業施設 (ショッピングモール、飲食店など)
- ⑤エンタテインメント施設 (シネコン、劇場など)

さらに、地域住民の「健康づくり」にも貢献することができ、地域社会においてスタジアムが住民にとって「なくてはならない施設」となり、その存在意義と存在価値は各段に高まるのである。



## Ⅲ. タウン・スクエア(タンピネス・スタジアム) (Town Square)

2019年6月15日訪問  
大城 亨太

### 1. タンピネス・スタジアム

#### (1) 以前は陸上競技場

Our Tampines Hub ができる前のタンピネス・スタジアムは、現在と同じ場所に陸上競技場として存在していた。メインスタンドには屋根がかかっていたが、座席は中央に100席程度であり、その両側は石段という状態であった。サッカーの試合を行う際には、バックスタンドには仮設スタンドを設置していた。収容数は4000人程度であったようである。

夜間照明が設置されており、サッカーの試合だけでなく、市民ランナー向けに一般開放も行われており、地元住民に愛されるスタジアムであった。2011年、Our Tampines Hub 建設のために取り壊された。



出典：<http://waka77.fc2web.com/>

試合時の様子



出典：<http://waka77.fc2web.com/>

市民ランナー向けに一般開放



出典：<http://waka77.fc2web.com/>

タンピネス・スタジアムの外観



出典：<http://waka77.fc2web.com/>

メインスタンド

### 2. タンピネス・タウン・スクエア

#### (1) 目指すは市民の憩いの場

Our Tampines Hub の建設にあたって、中央にサッカースタジアムを配置することが計画された。元々サッカーの試合を行う陸上競技場のあった場所であること、「スポーツで国民を元気にする」という Sports SG (スポーツ庁) の政策の影響であると思われる。

市民の憩いの場となることを目指して、「スタジアム」ではなく、「タウン・スクエア」という名称がつけられた。ピッチは人工芝で、スタンドは5000人収容である。

名称	Tampines Town Square
収容数	5000 人
ピッチ	人工芝 (2 Star Quality Pro football pitch)
使用クラブ	タンピネス・ローバーズ FC ゲイラン・インターナショナル FC
アクセス	地下鉄の MRT East West LINE タンピネス駅より徒歩約 5 分
オープン	2017 年 7 月 28 日に開催された S リーグの タンピネス・ローバーズ FC vs DPMM FC との試合が最初の公式試合 (試合は 2-0 でタンピネスが勝利)

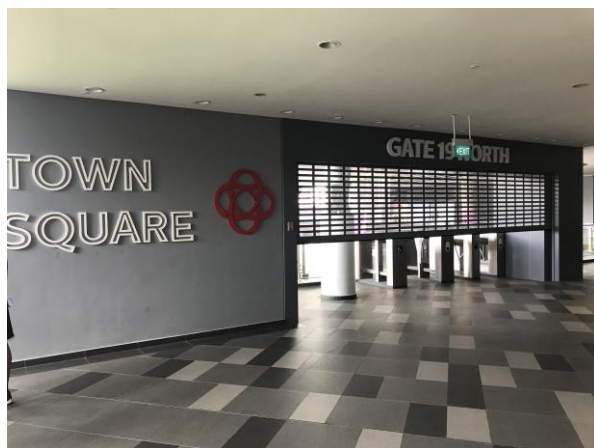


スタンド外観

スタンド以外の三辺を周辺施設がぐるりと囲む設計となっており、多くの施設から常にピッチを眺めることが可能である。周辺施設からの目線では、窓の外に緑色のピッチが見えて開放感が感じられるが、サッカーの興行という観点では、チケット代を払わずに周辺施設から試合を観戦することが可能となってしまうため、アジアサッカー連盟 (Asian Football Confederation : AFC) の公式試合の開催は認められていない。

## (2) 簡易なサッカースタジアム

入場ゲートは 1 カ所であり、観客の出入りをコントロールしやすい設計となっている。しかし、5000 人という収容数を考えるとやや小さめのゲートであり、観客が待機するスペースも確保されていないため、大きなイベントを開催する際には混雑が懸念される。



入場ゲート



ピッチを囲む周辺施設

ロアースタンドからピッチへと続く階段が整備されており、緊急時には観客がピッチへと避難する動線が確保されている。

スタンドは二層式となっており、その内訳はアッパースタンド 2000 人、ロアースタンド 3000 人となっている。残念ながら現在のホームクラブ (タンピネス・ローバーズ FC、ゲイラン・インターナショナル FC) はそれほど集客力がないため、公式試合でアッパースタンドを開放するケースはほとんどないということであった。





ピッチへの避難動線



チーム更衣室

アッパースタンドの最上段中央には、50人用のVIPラウンジ（Executive Lounge）が備えられている。プロジェクトも設置されており、会議室として使用することも可能な設計となっている。しかし、通常のシンガポールプレミアリーグの公式試合では、オープンにすることはあまりないという話であった。



VIP ラウンジ

1階の諸室としては、4つのチーム更衣室（うち2つは、ホームクラブであるタンピネス・ローバーズFCとゲイラン・インターナショナルFCがほぼ専有しておりクラブハウスのような状態）、審判更衣室、運営本部署、記者会見室、医務室などが整備されている。



記者会見室

外側にはチケット売り場も備えられているが、クラブ関係者によると、建物の構造と入場ゲートとの位置関係という点で、初めての観客には分かりづらい動線になってしまっているという話であった。

### (3) 常ににぎわいを

年間を通じてピッチの貸し出しを行っており、施設のスポンサーである法人は半年前から、一般の個人などは2週間前から予約が可能である。料金は、日中は1時間で150シンガポールドル（約1万1800円）、照明が必要な夜間は1時間で396シンガポールドル（約3万1200円）である。興行を行う場合は、料金表に基づき金額が設定される（12時間の使用で4400シンガポールドル（約35万円）など）。



予約がない場合は、基本的にピッチは一般市民に向けて開放しており、視察時にも親子連れや小学生がピッチ上で遊ぶ姿が見られた。周辺を囲む施設から常に見られる位置にあることから、「ピッチに人がいる状態」をつくり出すことを強く意識しているということであった。したがって、週末に予約が入っていない場合は、何らかのイベントを企画したり、周辺のコミュニティに連絡してフリスビーやラグビーのサークルの活動に利用してもらうとのことであった。



小さい子ども連れの夫婦がくつろぐ奥で小学生たちがサッカーをしている



ピッチに置かれた子どもの遊具施設  
(公式試合の数時間前)

つである「the shared stadium initiative」の取り組みとして、2019年より、タンピネス・タウン・スクエアは、タンピネス・ローバーズFC、ゲイラン・インターナショナルFCの2クラブのホームスタジアムとなった。

the shared stadium initiative とは、シンガポールプレミアリーグの8クラブが2クラブずつホームスタジアムを共有する（ホームスタジアムが計4つとなる）という施策である。各スタジアムをよりサッカー中心に稼働させること（ホームゲーム数が倍になる）と、スタジアムのインフラのアップグレード（映像配信システム、スタジアムWi-Fiなど）を集中的に行うことを目的としている。

スタジアムへの投資という側面からは非常に合理的な施策であるが、クラブと地元コミュニティとの関係やクラブのアイデンティティといった観点からは反対の声も根強く、FASは、「半永久的な施策であること」を強調している。

## (2) 半数のクラブがホームスタジアム変更

ゲイラン・インターナショナルFCはタンピネス地区の隣にあるベドック地区のクラブであり、2018年までは同地区内にあるベドックスタジアムをホームスタジアムとしていた。

本イニシアチブによりホームスタジアムが変更となり、イースタンダービーのライバルチームであるタンピネス・ローバーズFCに、ホームスタジアムをシェアさせてもらう形となった。激しいライバル関係というわけでもなかったため、ステークホルダーやサポーターの反発はそれほど大きくなかったようであるが、マーケティング上は当然不利な状態になってしまうため、FASから一定の補てんが行われたとのことである。

2020年以降、このイニシアチブがどのような動きを見せていくのか注目される。

※換算レートは、1シンガポールドル=78.85円（2019年6月時点）を用いた

## 3. ホームスタジアムのシェア

### (1) 1つのホームスタジアムを2クラブで

シンガポールサッカー協会（Football Association of Singapore : FAS）の施策の一

## IV. タンピネス・ローバース FC (Tampines Rovers FC)

2019年6月16日訪問

大城 亨太

### 1. シンガポールのサッカー環境

#### (1) シンガポールサッカー協会

シンガポールサッカー協会 (Football Association of Singapore : FAS) は 1892 年に設立されており、日本サッカー協会 (1921 年設立) よりも 30 年ほど古い歴史を持っている。1952 年に国際サッカー連盟 (Fédération Internationale de Football Association : FIFA) に加盟し、1954 年には、創設メンバー 13 カ国・地域 (アフガニスタン、ビルマ (現ミャンマー)、台湾、香港、インド、インドネシア、日本、韓国、パキスタン、フィリピン、シンガポール、ベトナム、イスラエル) の一つとして、アジアサッカー連盟 (Asian Football Confederation : AFC) に加盟した。また、東南アジア地域の 11 の国・地域が在籍する ASEAN サッカー連盟 (Asean Football Federation : AFF) にも 1984 年の設立当初より加盟している。

#### (2) シンガポール代表

シンガポール代表の最新の FIFA ランキング (2019 年 9 月 19 日発表) は、157 位 (アジア内では 32 位) であり、FIFA ワールドカップに出場した経験はない。AFC アジアカップには 1984 年に 1 度出場しているが、グループステージ敗退という結果であった。主に 2 年に一度開催される東南アジアサッカー選手権では、1998 年、2004 年、2007 年、2012 年と 4 度優勝している。

国際試合は主にシンガポール・ナショナルスタジア

ム (5 万 5000 人収容) で行われる。代表のチームカラーは赤で、愛称は「The Lions」。2019 年 5 月には、吉田達磨氏が代表監督に就任し、今後の躍進が期待されている。

#### (3) 国内のサッカー人気

シンガポール国内において、サッカーは水泳、バドミントンと並ぶ人気スポーツの一つである。ただし、試合観戦という点では、イングランドプレミアリーグなどの海外リーグやクラブが人気であり、サッカー人気をシンガポール代表やシンガポールプレミアリーグの人気につなげられていない点が課題である。

### 2. シンガポールプレミアリーグ

#### (1) 概要

シンガポールプレミアリーグ (Singapore Premier League) は、1996 年に発足した国内リーグである。2017 年まで Sリーグ (S.League) という名称で運営を行っていたが、2018 年にリブランディングを行い、新たなリーグ名でスタートすることとなった。それに伴い、保険会社大手の AIA グループがトップスポンサーとなった。



**SINGAPORE  
PREMIER  
LEAGUE**

シンガポールプレミアリーグのロゴ



リーグ戦は、3月から10月にかけて、9クラブの3回戦総当たりで行われている。下位のリーグ（ナショナルフットボールリーグ）とは連携しておらず、昇降格のない形で運営されている。

## (2) 歴史

1996年のSリーグ発足当時は、プロクラブが2、アマチュアが6の計8クラブという構成でスタートした。その後クラブ数は最大12まで増えたが、財政問題によるクラブ経営の悪化や、リーグの運営方針の変更などによって、現在は9クラブとなっている。

2003年には、リーグの関心を高めることを目的として、外国クラブのリーグ参加を認めることとした。第1号は中国のシンチ FC (Sinchi Football Club) であった。翌2004年には、シンガポールサッカーのレベルアップへの貢献と、選手の国際経験の充実化を図ることを目指し、アルビレックス新潟シンガポール (Albirex Niigata Singapore FC) がSリーグに参戦した。参入当初は日本の本体からの財政援助を受けていたが、その後単体で黒字を確保するようになり、2016年から2018年にかけてはリーグ3連覇を果たした強豪クラブとなっている。ちなみに、外国クラブで初の優勝を果たしたのは、2010年、フランスのエトワール FC (Étoile Football Club) である。

2018年のリブランディングに併せて、国内選手の育成を目指し、各クラブでの外国籍選手登録は2人まで、30歳以上の選手は6人まで、23歳以下の選手を最低6人以上登録し、そのうちスタメンに3人以上起用する必要がある、といったレギュレーションの変更を行った。

## (3) 所属9クラブ

- アルビレックス新潟シンガポール FC 【日本】  
Albirex Niigata Singapore FC
- バレステリア・カルサ FC  
Balestier Khalsa Football Club

- ドゥリ・ペンギラン・ムダ・マーコタ FC 【ブルネイ】  
DPMM FC
  - ゲイラン・インターナショナル FC  
Geylang International FC
  - ホーム・ユナイテッド FC  
Home United FC
  - ホウガン・ユナイテッド FC  
Hougang United FC
  - タンピネス・ローバース FC  
Tampines Rovers FC
  - ウォリアーズ FC  
Warriors FC
  - ヤング・ライオンズ FC  
Young Lions FC
- 【23歳以下の選手で構成される  
選抜チーム】

※現在の特別クラブは3クラブ

## 3. タンピネス・ローバース FC とは

### (1) 概要

タンピネス・ローバース FC は、1945年にタンピネス地区のサッカー愛好家によって組織化されたクラブである。

シンガポールアマチュアリーグ 3A よりスタートし、1976年に当時の1部リーグに昇格。1979～80年にはリーグ連覇をするなど、黄金時代を迎えた。1996年のSリーグ開幕後は優勝から遠ざかっていたが、2004～13年の10年間で5度のリーグ優勝を成し遂げた強豪クラブである。

クラブカラーは黄と青で、愛称は「The Stags」。これはクラブのマスコットがシカ (stag) であることに由来している。



クラブのエンブレムとユニフォーム

隣町のクラブであるゲイラン・インターナショナル FC との試合は、イースタンダービーと呼ばれている。

## (2) 主な獲得タイトル

### 【国内】

- シンガポールプレミアリーグ（Sリーグ）：優勝 5 回（2004、2005、2011、2012、2013）
- シンガポール・カップ：優勝 3 回（2002、2004、2006）
- シンガポール・チャリティーシールド※：優勝 3 回（2011、2012、2013）  
※シーズン開幕時に前シーズンのリーグ戦とカップ戦の王者が対戦する試合
- 旧シンガポール国内リーグでは、プレミアディビジョン優勝 3 回

### 【国際大会】

- ASEAN クラブ選手権：優勝 1 回（2005）

## (3) 経営状況

営業収益は約 90 万シンガポールドル（約 7100 万円）であり、内訳は、スポンサー収入 20 万シンガポールドル（約 1600 万円）、シンガポールサッカー協会からの補助金が 60 万シンガポールドル（約 4700 万円）、ジャックポッド収入が 10 万シンガポールドル（約 800 万円）である。ジャックポッドについては、2016 年に制度変更があり、クラブが受け取れる割合が減少してしまったとのことである。

スポンサー収入のほとんどは、ユニフォームの胸スポンサーである現代自動車からのものである。試合のチケットは、大人が 6 シンガポールドル（473 円）、子どもが 2 シンガポールドル（158 円）に設定しているが、平均入場者数 2800 人に対して有料入場者数は 300～400 人であるため、入場料収入はほとんどない状態である。地域コミュニティにチケットの無料配布を行っているが、入場者数の増加には結びついておらず、今後の課題である。リーグ全体の平均入場者数は 1000 人以下（正式な数字は非公表）であり、タンピネス・ローバース FC は、アルビレックス新潟シンガポール FC と並んで集客力のあるクラブである。

## (4) 組織体制

フロントスタッフは 11 人で、現場のコーチなどを兼任している人がほとんどである。主なフロント業務は GM の Leonard Koh 氏が対応している。

ホームゲームの際にはボランティアスタッフ 20 人を含めた 40 人程度で運営を行っている。セキュリティスタッフ、医師については契約を締結して報酬を支払っているが、ボールボーイ、担架担当などはユースの選手に頼んでいる。



ヒアリングに対応してくれた Koh GM（右）



## 4. ホームスタジアム

### (1) タンピネス・タウン・スクエアとの関係

タンピネス・ローバーズ FC は、タンピネス・タウン・スクエアを運営する人民協会（People's Association : PA）から見ると一利用者という位置付けではあるものの、タンピネス地区のプロクラブということでピッチ利用に関する優遇措置を受けている。ただし、ゲイラン・インターナショナル FC との調整は必要である。あくまで行政の施設であるので、それほど密に PA とコミュニケーションを取っているわけではない。ピッチの利用方針は Sports SG や PA が決定し、基本的にはクラブはそれに従うだけである。

### (2) AFC 公式試合では使用不可

Our Tampines Hub を整備する際にも、Sports SG や PA から、事前に詳細な相談があったわけではなかった。あくまで公共施設であり、サッカーを優先に考えられた施設ではない。スタンド以外の三辺の周辺施設からいつでもピッチを眺めることができるため、AFC のインスペクションでは公式試合では使用不可との結論であった。クラブの試算では、周辺施設に目隠しのようなものを設置すると、6 万シンガポールドル（約 470 万円）の費用が発生するため、現実的ではない。

### (3) 施設の盛り上げに貢献

PA は施設の収益よりも稼働率を最も重視しており、クラブとしてもそれに貢献するためにイベントの開催などで協力している。現在検討している企画は、24 時間のサッカー・トーナメントである。夕方（17 時半～）に子どものトーナメントを行い、その後 21 時から翌日の 21 時まで大人のトーナメントを行う計画である。2006 年に、旧タンピネス・スタジアムでも賞金 5000 シンガポールドル（約 40 万円）で開催したことがあるが、その際は大変好評であり、スタンドが満員の状態であった。今回の企画も、周辺施設との

詳細の調整はこれからであるが、Sports SG と PA は、多くの人々が Our Tampines Hub を訪問し、消費が活発になると大変期待してくれている。

### (4) スタジアムのシェア

FAS による the shared stadium initiative の導入には驚いたが、考え方は理解できるものであったため、特に反対することはなかった。Our Tampines Hub の活性化としても良いことだと考えている。ホームスタジアムを移すことになったゲイラン・インターナショナル FC が苦勞することのないよう、ピッチの調整には気を使っている。

クラブの事務所を Our Tampines Hub 内に移すという話もあったが、徒歩数分の場所にある現在の事務所の家賃が 2000 シンガポールドル（約 16 万円）であるのに対し、引っ越すと 1 万シンガポールドル（約 80 万円）となってしまう、ゲイラン・インターナショナル FC のようにホームスタジアム移転に関する補助も得られないため、断念することとした。

※換算レートは、1 シンガポールドル=78.85 円（2019年6月時点）を用いた

## V. ゲイラン・インターナショナル FC (Geylang International FC)

2019年6月16日訪問  
 大城 亨太

### 1. ゲイラン・インターナショナル FC とは

#### (1) 概要

ゲイラン・インターナショナル FC (Geylang International FC) は、国際的なクラブを目指して1974年に設立された。1996年のSリーグ開幕時にクラブ名を「Geylang United FC」に変更したが、2013年に以前のクラブ名に戻している。

1970~80年代には多くのタイトルを獲得し、最も成功したクラブの一つとなった。1996年のSリーグ初代王者でもあり、Sリーグ開幕後の優勝回数は多くないものの、多くの代表選手を輩出する強豪クラブである。

メインスポンサーであるEPSONの縁で、2016年にJリーグの松本山雅FCと業務提携契約を締結。アカデミー選手やチームの交流、指導者の派遣などで連携している。

クラブカラーは緑で、愛称は「The Eagles」。これはクラブのマスコットがワシ (eagle) であることに由来している。



クラブのエンブレムとユニフォーム

ベドック地区のベドックスタジアムをホームスタジアムとしてきたが、シンガポールサッカー協会 (FAS) の

「the shared stadium initiative」により、2019年からタンピネス・ローバーズ FC とタンピネス・タウン・スクエア (Tampines Town Square) をホームスタジアムとしてシェアすることとなった。

#### (2) 主な獲得タイトル

##### 【国内】

- シンガポールプレミアリーグ (Sリーグ) : 優勝2回 (1996、2001)
- シンガポール・カップ : 優勝1回 (1996)
- 旧シンガポール国内リーグでは、プレミアディビジョン優勝4回、ナショナルリーグ優勝2回、プレジデント・カップ優勝5回

##### 【国際大会】

なし

#### (3) 経営状況

営業収益は約100万シンガポールドル (約7900万円) であり、内訳は、スポンサー収入20万シンガポールドル (約1600万円)、FASからの補助金が70万シンガポールドル (約5500万円)、入場料収入、物販収入はほとんどない状態である。

スポンサー収入のほとんどは、ユニフォームの胸スポンサーであるEPSONからのものであり、クラブとしては拡大の必要性を考えているものの、平均入場者数が1000人程度であり、企業に価値をアピールするのが難しい状況である。タンピネス地区とベドック地区は隣接しているため、入場者数に関してホームスタジアム変更の影響はそれほど大きくはない。

FASからの補助金は、Sports SGからFASに支



払われている年間 2000 万シンガポールドル（約 15 億 8000 万円）の補助金が原資となっている。国を挙げてスポーツに力を入れている中で、リーグやクラブの運営に関しても国からの手厚いサポートが整っている。

また、サッカークラブはその他社交クラブと同様に、国からジャックポッド（スロットマシン）の営業およびスポーツくじの販売を行う権利が与えられている。その他収入としてある程度の売り上げがあるものの、マシンの台数に上限（基本的に 15 台）が設定されており、建物の確保などの投資も必要であるため、クラブとしては成長性のある分野とは考えていない。営業権の付与にあたっては、アカデミーチーム（U-18、U-15）を保有すること、スクール事業を行うこと、学校を訪問してサッカー教室を行うこと、といったルールが設けられている。



オフィシャルショップ（隣にジャックポッドの店舗がある）

#### (4) 組織体制

会長、副会長に加えて非常勤の理事が 6 人がいずれも無報酬である。職員は、フロントスタッフ 3 人、コーチングスタッフ 7 人、クラブハウス（ジャックポッド含む）スタッフが 12 人という体制である。フロントスタッフは最低限の人数という状況であるが、会長の Ben Teng 氏としてはクラブの経営規模を考えると仕方がないという認識である。主に GM が複数の業務を行っている状態である。

会長はアラブ首長国連邦のドバイで事業を行っている実業家である。シンガポールプレミアリーグでは、各クラブの会長は FAS が定める仕組みとなっており、ほとんどの会長は実業家が本職でクラブ会長を兼任する形となっている（例えば、タンピネス・ローバーズ FC の会長は弁護士、バレスティア・カルサ FC の会長はスポーツ用品店の社長）。Teng 氏が会長に就任したのは 3 年前で、経営破綻しかけていたクラブの立て直しを依頼されたことがきっかけであった。財務的に少し安定してきたこともあり、今後は、サポーターを増やすことを目指して、SNS などを活用したファンエンゲージメント、広報活動に力を入れていきたいという話であった。



Teng 会長（右から 2 人目）  
Gay 副会長（左から 2 人目）  
四方理事（左端）

## 2. ホームスタジアム

### (1) ベドックスタジアムからの移転

シンガポールプレミアリーグでは、クラブよりも FAS の力が強く、the shared stadium initiative の導入についても、是非を議論する場は設けられたものの、「まずやってみる」という Sports SG や FAS の方針に基づき取り組みが進められた。

ただし、ホームスタジアムを移転するクラブが経済的に不利益を被ることがないように、Sports SG から

FASを経由して、月1万3000シンガポールドル（約100万円）の補助金が拠出されている。金額の根拠は明確ではないが、これにより、ゲイラン・インターナショナル FC は Our Tampines Hub 内にクラブ事務所を構えることが可能となっている。



クラブ事務所内の会長室からはピッチが見える

## (2) 移転について不満なし

ベドックスタジアムは1982年竣工で老朽化が進んでいたのは事実であった。「全てのスタジアムのインフラを整備することはできないため、ある程度スタジアムを集約した上で投資する」という施策の方針も理解し、クラブとしてはイニシアチブの導入に大きく反対するという事はなかった。ベドック地区の人口は約30万人、タンピネス地区は約40万人であるため、ホームタウンの人口が70万人になったという気持ちで活動に取り組んでいるということである。Our Tampines Hub はベドック地区からもそれほど離れておらず、新しいコンセプトの新しい複合公共施設であるため、ホームスタジアムの移転に関して大きな不満はないとのことであった。

## 3. ホームゲーム

### (1) 試合概要

試合日	6月16日(日)
キックオフ時間	17:30
大会名	シンガポールプレミアリーグ第12節
対戦カード	ゲイラン・インターナショナル FC vs バレスティア・カルサ FC
試合結果	5-0
得点者 (時間)	1-0 S. Anuar (17) 2-0 B. Maguire (43) 3-0 S. Anuar (45) 4-0 B. Maguire (48) 5-0 Y. Ichikawa (76)
入場者数	非公表

### (2) ホームゲーム運営

フロントスタッフ3人に加えて、多数のボランティアスタッフによってホームゲームの運営が行われていた。ボランティアスタッフの人数は試合日によって異なるが、クラブは60~70人のリストを保有しているとのことであった。数人のプロのセキュリティースタッフや医師には試合ごとに報酬を支払っているとのことである。



グッズショップもボランティアスタッフが運営

チケット代は、大人が7シンガポールドル（約550円）、子どもが3シンガポールドル（約240円）で設定されている。チケット売り場は簡素であり、やや分かりにくい場所にあるため、サッカーに関心のない人



は、この日にプロリーグの試合が開催されていることに気づかない可能性もあると感じられた。



チケット売り場

入場ゲートでは手荷物検査が実施されており、持ち込みが禁止されているペットボトルなどを一時保管する棚が設置されていた。ある程度のセキュリティは担保されているという印象であった。



入場ゲート

座席は全席自由席であり、この日はロアースタンド（3000人収容）のみが開けられており、アップースタンド（2000人収容）およびVIPラウンジは立入禁止とされていた。VIP席や記者席が設けられているわけではないため、クラブ関係者やメディア、この日たまたまスタジアムを訪問していた吉田達磨シンガポール代表監督も、一般客と同じ座席で試合観戦を行っていた。



両チームの選手入場

試合運営はスムーズで、大きなトラブルもなく進行された。スタンドの向かいに位置する図書館など、施設内のその他の場所から試合観戦を行っている人も見られたが、運営上は特に対応を行っていないということであった。

試合は5-0でゲイラン・インターナショナルFCの快勝であったが、試合終了後は両チームのベンチメンバー同士もあいさつを行う姿が見られ、観客も終始温かい雰囲気をつくり出していた。



試合終了後はベンチメンバー同士もあいさつ

※換算レートは、1シンガポールドル=78.85円（2019年6月時点）を用いた

## VI. ザ・フロート@マリーナ・ベイ (The Float@Marina Bay)

2019年6月15日訪問

佐藤 仁司

### 1. 海に浮かぶグラウンド

観光客が必ず訪れるにぎわい中心地、正面にマリーナ・ベイ・サンズがそびえ立ち、右手奥にマーライオン象が見えるマリーナ湾に、人工芝のサッカーグラウンドが浮かぶ。「ザ・フロート@マリーナ・ベイ」。



グラウンドには5m程度の栈橋を渡って入る。栈橋は3本渡されているが、セキュリティはなく、誰でも入って遊ぶことができる。サッカーのフルコート1面分の広さ(120x83m)を持つピッチには、9000人までグラウンドに入れるという(ペットやスケートボード、釣りは禁止)。穏やかな湾のため、グラウンドで「揺れ」は感じなかった。



海に面した3方は、高さ約12mの防球ネットがある。高さ20m以上のポールも4本あり、これにネット

を張ってピッチを囲むこともできる仕様になっている。

人工芝は、黒チップ入りのショートパイル。ピッチ状態はあまり良くない。200ルクス程度の夜間照明、避雷針、電光スコアボードが常設されている。視察時にサッカーゴールはなかった。

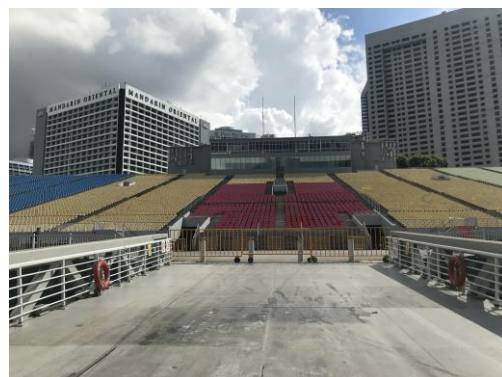


陸側には3万人(実際には1万席程度?)の1層スタンドがそびえ立つ。観客席(椅子)はチケットコントロールも想定して色分けされており、全て個室で30cm程度の背もたれがある。屋根はないが、最上段には諸室がある。スタンド下にトイレがあるが、客席もトイレも柵で立ち入ることはできない。

### 2. さまざまなイベントの会場として

2007年5月完成。コンサートや展示会、シンガポールの建国記念日(8月9日)に行われる「ナショナル・デイ・パレード(National Day Parade)」の大規模イベント会場として使用されている。2008年からはF1世界選手権の1戦「マリーナベイ・ストリート・サーキット」の会場にもなり、浮遊式ステージと観客席との間をフォーミュラカーが駆け抜けるらしい。



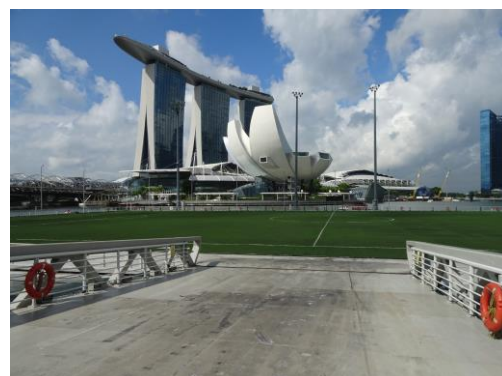


### 3. 斬新な発想から生まれた「必見スポット」

何もない湾に、グラウンドを浮かべ、日常的に「公園」のように開放するアイデアは斬新で、とても素晴らしい。

世界でただ一つ、「海に浮かぶスタジアム」として話題になり、人々が訪れる。オリジナリティーにあふれ、マリーナ・ベイをおしゃれな観光地に引き立てる必見スポットの一つになっている。

安全対策のため、ピッチの周囲には、10m 置きに「浮輪」が備えられているが、それもまた、ユーモラスな風景に感じられた。



ポストカード。左の赤い花火が打ち上げられている場所



## Special Thanks

### Sports Singapore

Sandra Thng	Team Lead, Strategy Sports Hub Programme Office
Jasmine Ong	Business Operations Sports Hub Programme Office
Joey Teo	Place Making & Programming Sports Hub Programme Office
Parry Low	Sport Centre Lead Tampines Sport Centre
Jemuel Fu	Active SG Football Academy

### Singapore Sports Hub

Pan Shasha	Director, Sales
Hu Qiuling	Sales Manager

### Geylang International FC

Ben Teng	Chairman
Thomas Gay	Vice Chairman
四方 健太郎	Director
塩川 由貴	Operation Manager

### Tampines Rovers FC

Leonard Koh	General Manager
恵 龍太郎	選手

### 通訳

澤田 陽樹	一般財団法人グリーンスポーツアライアンス 代表理事
-------	---------------------------

(敬称略)

## おわりに ～スポーツの日常、見習うべきチャレンジ精神～

シンガポールは不思議な国だ。

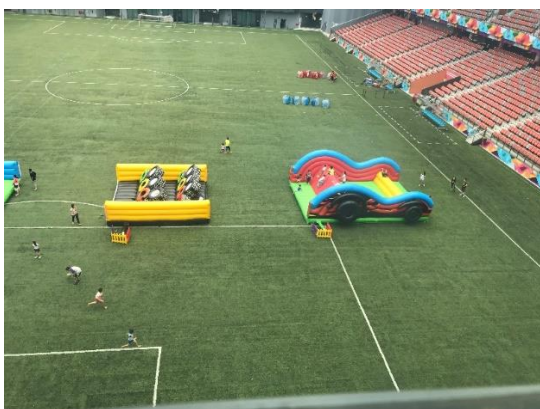
第一級のエンターテインメントを提供できるアクセス抜群の巨大スタジアムを中心に、この国の多くのスポーツの最先端競技施設が集まり、同時に市民スポーツの場ともなっている「シンガポール・スポーツハブ」。その一方で、まるで町の「広場」のようにゆる～いスポーツ施設を中心とした「タンピネス・ハブ」が、ほぼ同じ時期に完成している。180 度違うと言ってよい「スタジアム思想」は、この狭い島国の中でどう共存しているのだろうか。

2017 年夏にオープンした話題の「タンピネス・ハブ」は、プロリーグの会場としては賛否両論あるだろう。

場外からは試合が丸見え、タダ見しても注意すらされない。バックスタンドの図書館からはソファにもたれてガラス越しに無料観戦が可能だ。「有料試合に不適切」としてアジアサッカー連盟（AFC）の公式試合開催は認められていない。劣悪な人工芝からは黒チップが飛びはね、選手がゴムの上を走っているように見える。チーム更衣室は狭い倉庫。私のようなアタマの固い日本人は、ここで思考停止してしまうのだが、シンガポール人は違った。「でも、ま、いっか！」と。

ベースにあるのは「大勢の人に施設を利用してもらえらなら」という考えに違いない。

試合開始 3 時間前まで、ピッチにはエア遊具が置かれ、子どもたちが遊んでいる。スタジアムとは言わず、タウン・スクエアと称するこの「中庭」は「開放された公園」なのだ。周囲を囲むのは行政サービスや図書館、病院、映画館。ジムやプール、ランニングコースにボウリング。スーパーマーケット、フードコートに屋上菜園とフルコース。そこに総工費約 400 億円を投じたと考えれば、この多機能複合施設の公共的価値の高さが理解できる。



試合前のピッチを走り回る子どもたち



シンガポール・スポーツハブのバッグには「EXPERIENCE SPORTS」のキャッチコピー

AFCやプロの試合開催とは切り離して施設を見ると、頭の中がスッキリする。誰もがピッチの上で楽しみ、見学者のために屋根付きのスタンドも用意されている。このような「グラスルーツの施設」があれば、スポーツが一層楽しくなるに違いない。

同様のことが「ザ・フロート@マリーナ・ベイ」にも言える。狭い国土、入り組んだ湾の上に、ピッチを浮かべてサッカーやイベントに使用する発想。これも「プロ」とは無関係の視点から生まれている。

シンガポールプレミアリーグは、1996年に創立したが、国内での存在感はまだ薄い。しかし彼らはそれをハンディとは捉えていない。プロクラブに頼らない、本質的な国民のためのスポーツ施設に結びつけた発想で、シンガポールという土地柄に適した、世界には例を見ない施設を造り出したのだ。

3時間後、有料（全席自由席、大人約600円）の観客は手荷物検査を受け、屋根に覆われた背もたれ43cmのゆったりとした個席に着く。ハーフタイムにはブラックライトで光るスタンプを手に押しもらって買い物などに出ていく。試合中、四隅にはタダ見客が立ち並んでいるが、それもこの施設の在り方の一つと割り切り、みんなでスポーツを楽しんでいる。その姿に、考えさせられるものが多かった。

公益社団法人 日本プロサッカーリーグ クラブ経営本部  
クラブライセンス事務局 スタジアム推進役  
佐藤 仁司

#### Jリーグシンガポール視察 2019 報告書

発行日	2019年10月1日
編集	大城 亨太（公益社団法人 日本プロサッカーリーグ クラブ経営本部）
写真	© J.LEAGUE
発行	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ





スポーツで、もっと、幸せな国へ。

**百年構想**